官版

海外新聞

自六號至十號

大學南校

宮内省
服部文庫
イ17
88
2

イ17
88
2

海外新聞六號

千八百七十年第八月廿六日我七月三十日横濱刊行ジッパン、ヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第七月二十七日我六月廿九日トレベス普ノヨリ府名昨日佛兵盧森堡リキセンビエルグノ中立ヲ破リテ其地ニ侵入シ其兵百人許シールクヨリサールルイスニ進ミタリ

第七月廿八日我七月朔日倫敦ヨリ

三日ヲ期シテ必ズ大戰アル可キ模樣ナリ

普兵ノサール河近ノトレベストメルレフトノ間ニ集リタル其数四十万人ニ至リシガ騎兵ノ数過多ニシテ馬秣ノ缺乏ナルニ窘窮セリ又其地ニ在ル佛兵ハ三十万人ナリシ

第七月廿九日我七月二日巴勒(パリス)ヨリ本日メッツ(佛ノ府名)ニ於テ英米ノ新聞報告者数人間者ナリトテ逮捕セラレタリ

第七月二十六日我六月廿八日新約克(ニウヨルク)ヨリ普兵米利堅士官ノ勸メニ従ヒ輕氣球ニ乗リテ

斥候ヲ為シタリ

日耳曼人戦ニ出ルヿヲ免ントシテ瑞西(スイツル)ニ逃レ来ル者甚タ多シト

千八百七十年第八月二十七日我八月朔日横濱刊行毎週新聞ヨリ抄譯ス

米利堅ノ飛脚船来着ニ就キ左ノ報告ヲ得タリ

第七月三十日我七月二日巴勒ヨリ佛普両國愈戦ヲ始メ普ノ兵四隊ニ分レ萊尼(ライン)河邊ニ屯集セリ

巴勒ニテ日耳曼ノ為替商人ヲ逮捕シ及ビ普ノ間者二人ヲ生擒シタリ

佛ノ兵器庫ヨリ第七月ニハ毎週間ニ五万挺ノシヤセツポー銃ヲ搬出セレガ第八月ニハ毎週間四万七千挺ヲ製造シ第九月ニハ毎週間五万挺ヲ製造シ第十月ニハ六万挺ヲ製造スルニ至ル可シ

墺地利ハ以太利ニテ羅馬ヲ所轄トナス可キヿヲ許諾シタリシ

第七月三十一日我七月四日巴勒ヨリ佛ノ兵務局ニテ昨日ノ午後第一字迄ハ戦争及ビ進攻ノ報告ヲ得ルヿナシ

去第二十六日我六月廿八日ノ小戦ニテ針打銃トシヤセツポー銃トノ優劣ヲ知ルヿヲ得タリ其故ハ普兵ハ八百メートル一メートルハ我ノ三尺餘ニ當ル距離ヨリ針打銃ヲ放發セシガ其丸佛兵ニ達スルヿ無クシテ百メートルノ所ニテ止マレリ又佛兵ハシヤセツポー銃ヲ大抵普兵ト同時間ニ放發シタリシ

ガ其凡敵ニ達スルヿヲ得ノ數人ヲ殺スニ至レリ譯者案ズルニ此說第五号ニ記スル所ト齟齬セリト雖モ新聞ノ儘ヲ此ニ譯セリ

佛ノ僧徒城砦ノ圖ヲ陰ニ普兵ニ渡セルノ罪ニ依リテ國民ニテ逮捕セラレタリ

第七月三十日我七月三日サールブリュックヨリ本日拂曉佛將バセイヌガ麾下ノ兵士大砲四門ヲ搬運シサトルブリュックニ迫リ普兵ヲ追卻セントシタリ又其佛兵サールブリュックノ邊リ近クニテ普ノ義勇兵ニ會ヒ少シク戰ヒニ及ヒタリ又其日夕ニ至リ佛兵烈シク普兵ヲ壓ヒシガ却テ普兵ノ為メニ返擊セラレ大砲一門ヲ搬運スルニ暇無ク之ヲ遺レテ退キタリ佛兵ノ死傷二十人普兵死傷ハ八人ナリシ此小戰ハ四号ニ記スルモノト同シ

第七月三十一日我七月四日伯靈ベルリンヨリ普王出陣セント其都ヲ發スルニ方リ布令書ヲ出シテ士民ニ告諭セルハ此度ノ戰ハ日耳曼全國ノ名聞毀譽ニ關スルモノナレバ其國民擧テ奮發シ戰ニ赴ク可シト」普王又國政ノ事ニ付異

議ヲ述ベ罪ヲ犯シタル者ニ赦令ヲ下シタリ

同日巴勒ヨリ

墺地利ハ普ノ首相ビスマルクノ墺國ノ中立ヲ破リ侵入セン事ヲ恐レ大ニ兵備ヲ為スニ至レリ其総督ハ佛ニ同意セル皇族アルブレフトナル可シ

同日伯靈ヨリ

普王及ビ其附属ノ士官等本日佛ノ國境ニ向テ進發セリ

同日倫敦ヨリ

昨日以来小戰止ムヿ無シ普ノ斥候兵境ヲ越ヘテ佛地ニ進入セシガ敵一人ヲモ見ルヿナカリシ同日佛ノ騎兵退擊セラレ士官一人兵士十三人ヲ失ヒタリ

今朝烈シキ小戰アリテ佛ノ歩兵隊サールルイスノ邊リ近クヨリ普ノ領地ニ進入セシカバサールルイスニ在ル普ノ兵四十人其他ノ歩兵ト共ニ之ヲ拒ンガ為ニ進發シ遂ドワイレントゴ

ルサルーテムトノ間ニ於テ其佛兵ニ會セシカ俄ニ佛ノ騎兵隊其歩兵ノ應援トシテ馳来レルヲ以テ普兵奮テ迅速ニ其針打銃ヲ放發シ敵ノ騎兵ヲ追卻シタリ又歩兵ト戰ヒシガ佛兵ハ大ニ敗北シ死シタル士官一人兵士八人ヲ戰場ニ遺シ其提ケタル器具ヲモ棄テヽ逃去リタリ普ノ兵士モ亦三人大傷ヲ蒙リタリ

千八百七十年第八月廿七日我八月朔日横濱刊行エコー、デュ、ジャッポン新聞ヨリ抄譯ス

第七月二十三日我六月廿五日巴勒ヨリ

ビュールナル、オヒシェール新聞ニ佛皇帝ヨリ其國民ヘノ諭文ヲ記載シタリ

佛國士民ヘ

夫レ萬國共ニ危急興敗ノ秋ニ方リ敵國外冦ノ爲ニ國ノ恥辱ヲ招カントスルヤ其民タラン者固ヨリ他事ヲ顧ルノ遑無ク舉テ仇敵ヲ一朝ニ追攘シ國運ヲ挽回セン事ヲ思ヒ奮起騰踊シ制スベカラザルニ至レル事是レ古今共ニ然リ何

ゾ國ラン今我佛國ニ於ル治ト此形勢ニ至レリ
抑普魯士國ニ於ル千八百六十六年墺國ト一戰
ノ比我國之レガ勸解ヲ勉カセシニ遂ニ我國ノ厚
誼ヲ忘却シ動モスレバ外國ヲ侵擊セントスル
ノ景狀アレハ歐洲各國之レガ為ニ常ニ悚怖シテ
安堵セザルニ至レリ是我國恐シテ躊躇スベキ
ノ時ニアラス加之近來ノ一事件生ゼシヨリ以
來益其暴威ヲ逞フスルノ意ヲ察スルニ全ク我國
ヲ危メントスルニ在ルヽ知ル可キノミ彼普國

ノ舉動タルヤ非理ノ說ヲ以テ我國ニ迫リ我ヨ
リ彼ニ欲スル所ハ彼ニ於テ之レヲ拒ミテ肯ゼザ
ルノミナラス剩ヘ我國ニ恥辱ヲ與フルニ至リ
タリ是レ汝等士民ノ皆之レヲ憤怒シ俄ニ兵端ヲ
開カントシテ其聲四境ニ達セシ所以ナリ
然レハ方今ニ至リ既ニ問罪ノ師ヲ起スニ至レ
ルヿ豈已ムヲ得ザルノ勢ト謂フ可キカ故ニ此
舉ハ普ノ罪ヲ問フニ在リテ敢テ日耳曼全國ト
戰ハンヿヲ欲スルニアラズ日耳曼ノ國人其國

事ヲ自由ニ所置スルニ於テ我妨ゲザランヿハ誓テ保證スル所ナリ蓋シ今度戰ヲ起スノ主意ハ我國ノ偏ヘニ安寧ナルヿヲ得テ日後ニ至リ終ニ外冦ノ患之レ無ランヿヲ希望シ且各國人民生業ニ安シ財利ヲ営ムヿ自由ニシテ苟モ互ニ相仇視シ危難ノ形狀ヲ生ズル等ノ事アルヲ一掃シテ萬國恭然和平ヲ得ルニ至ル時ハ我ノ心事了スルニ足レリ夫我佛國ノ顯著ナル國旗ハ既ニ數度敵兵ヲ慴服セシムルモノニシテ其至

ル所遂ニ皆開化文明ノ道ニ向ハシムルノ名譽アルヿハ是衆庶ノ普ク知ル所ナラン

今汝等ニ告グ余此度ノ出陣ニハ我國報國忠誠ノ兵士ヲ從ヘ指揮セントス此兵士等ハ既ニ百戰百勝ヲ経テ勲功ヲ奏シ其威ヲ五洲ニ耀シタルモノナレバ此度ノ舉ニモ亦十分ノ勝算アルヿ疑ヒ無シ余又我兒ヲ同行シテ戰ニ從事セシメントス彼未タ若年ナリト雖モ苟モ其名ヲ辱ムルヿ無ク必ズヤ我佛國ノ為ニ身命ヲ擲チ戰

フニ至ル可シ
嗚呼皇天上帝我此盛挙ヲ保佑シ給フ可シ何ソ
正理ヲ循守セル大國士民豈ニ敗北ヲ取ルノ恐
レアルベケンヤ勉ヨヤ士民

海外新聞六号畢

海外新聞七號

千八百七十年八月廿七日我八月朔日横濱刊行

エコー、ジュ、ジャツポン新聞ヨリ抄譯ス

第七月廿六日我六月廿八日巴勒ヨリ佛國ノ皇后ハ其海港セルブールニ至リ海軍戰士ヘ皇帝ノ告諭ノ書ヲ讀ミ聞セタリ即チ其文ニ余ニ於テ身ハ平生汝等ト相與ニ居ラスト雖モ心ニ於テハ常ニ汝等ノ波濤ヲ冒シテ勇ヲ煙ス其船内ニ在ルカ如ク殊ニ我國ノ海軍ハ往昔

ヨリ家モ人ノ賞譽スル所ニシテ宇内ニ名高キモノナレハ汝等ニ於テ我國往昔ノ威名ヲ墜シ國ノ辱ヲ貽スヿナク且汝等ノ敵ト戦フ時我全國ノ士民ハ皆汝等ノ克捷ヲ獲ルヲ冀フテ其保護ヲ上天ニ禱祈スレハ汝等亦能ク士民ノ意ヲ熟慮シテ陸軍ノ兵士ト相與ニ協力センヿ是余ノ希望スル所ナリ冀クハ汝等我佛蘭西ノ國旗ヲ敵前ニ翻シ敵ヲシテ我國ノ威名ト智勇トノ旗色ノ中ニ充満スルヲ恍トシテ海風ノ外ニ仰視セシメ其心膽ヲ挫折センヿヲ要スルニ在リトナリ

第七月廿九日我七月二日 倫敦ヨリ

巴勒ニ在留セシ普國公使コウントベルンストフヨリ本日公告シタルニ佛蘭西ハ千八百六十六年我國ト墺地利トノ戦ヒノ比我國ニ於テ萊泥河トモゼール河トノ中間ノ地ヲ與フルヿヲ許セル時ハ我國ノ為ニ三十萬ノ兵ヲ出シテ墺國ヲ攻ム可シト言送レルヿアリシカ我國ニ於

テハ其事ヲ拒ミシヨリ佛帝ハ其後頻リニ墺國ヲ助ケント為スノ念ヲ生シタリ然ルニ佛帝ハ方今ニ至リ其説ノ全ク虚妄ナルヿヲ辨解シテ已ノ知ラサル所ナリト言ヘル事其實ハ千八百六十六年ヨリ以来度々我國ニ言送リシ所ナリ

佛兵ハ盧森堡（リュキセンビュルク）ノ中立ヲ犯シテ其境内ニ攻メ入リシト言フ者アレ𪜈其説ハ實ニ過グルノ甚シキモノニシテ佛國ノ兵士数人煙草ヲ購ヒ求メンガ為メ其國界ニ在ル河ヲ越ヘ盧國ノ地ヘ至リシヨリ起リシ所ノ風評ナリ

同日伯靈（ベルリン）ヨリ

英吉利ノ佛國ニ「コンタラバント」中立國ヨリ戰ヲ為ス國ニ販賣ス可カラザル貨物ヲ賣リテ中立ノ法ヲ犯シタルヿヲ伯靈ニ於テハ誹議スル者甚タ多シトナリ

同日倫敦ヨリ

普國政府ハ佛國ノ散兵ヲ一番ニ打取リシ者ニ五千「ダーレル」（凡我三千七百兩許ニ當ル）ノ褒賞ヲ與フ可キヿヲ其軍中ニ布令シタリ

英國ノ議院ニ於テステープルトン氏ハ自國ヨリ佛國ノ兵船隊ニ石炭ヲ與フ可キヤ否ヤノ一事ヲ議定ス可シト述ベタリ

同日巴勒ヨリ

巴勒刊行ビウルナル、ヲヒシエルト云フ新聞ニ現今巴勒ニアル支那ノ使節ノ書翰ヲ載セタリ其書ニ其使節ノ此度天津ニ於テ支那人ノ佛人ヲ屠殺セシヿヲ聞キ實ニ歎息ニ堪ヘザル由ト支那政府ニテ貴重ノ官員ニ此不慮ノ事ノ吟味ヲ

為ス可キ旨ヲ命シタルノ説ヲ聞キシ由トヲ記シ且其命ヲ受ケタル官員ハ殊ニ勉勵シテ其事由ノ探索ヲ為ス可ク又支那政府ハ各國ト結ヒタル條約ニ循ヒ此事ヲ處置スレバ其使節ニ於テ他ノ歐洲ノ各國ト相商議シ既ニ熟議ニ及ヒシカ如ク佛國トモ亦萬國ノ公法ニ原キ日後ノ交際ノ道ヲ定メンヿヲ其執政ト相商議シ熟議ニ至ルヲ冀カフ所ナル由ヲ記シタリ

其使節ハ方今西班牙（スペイン）ノ首府馬德里（マドリット）ニ赴ク可キ

由ナレトモ佛國ノ執政ノ意ヲ聞ク可キ為メ不日ニ復タ巴勒ニ歸リ来ル可キ由ナリ

第八月三十日（我八月四日）横濱刊行同上新聞ヨリ抄譯ス

芝罘（支那ノ開ノ港内ニ碇泊セシ普國ノ兵船ハ（チエフ）港場ノ名）ルタハ其近海ニ於テ船調練ヲ為ス可キ由ヲ口實トナシテ出港セシガ其仍歸リ来ラズ想フニ歐洲ヨリ佛ト其本國トノ際ニ愈〻戰爭ノ始リシ報告ヲ得タルニ因リ長崎ニ来リテ同國ノ兵船メジユサト相與ニ北方ノ港ニ至ラントスルナル可シト云ヘリ

北京ニテ英國公使ウエード及ビ其相親昵レタル支那人トノ家ニ来リ乱妨ヲ為シタル者アリテ且英國公使ノ市中ヲ通行シタル時之ニ石ヲ投ケ付ケタル者アリシ由ナリ又総テ支那ニアル外國人ノ摸様ハ其北方ノ地殊ニ穏カナラサルニヨリ天津及ヒ其他ノ開港場等ニ居留スル者日〻ニ上海ニ遁ケ来リ且更ニ外國人ノ復タ屠

殺ヲ被ル事ヲ聞クアル可シト皆掛念スル由ナリ

佛國公使コントロシユシユワルハバロンメリタント共ニ北京ニ歸レリ

日本ノ國旗ヲ立タルホンクト号スル船本月サ六日我七月晦日キンノ岬ノ近辺ニテ二年前ニヘルマント云ヘル米國ノ飛脚船ノ破船セシ所ノ岩ニ乗リ掛ケ其乗組ノ者ハ皆恙ナキ趣ナレ𪜈船ハ全ク打碎ケタル由ナリ

千八百七十年第八月三十日我八月四日横濱刊行ジヤッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

傳信機ノ報告

第八月六日我七月十日倫敦ヨリ

普兵萊尼河ノ右岸カルスヒューニ於テ佛兵ノ為メニ撃敗セラレ又其左岸カルリングニ於テモ亦敗衂ヲ受タリ

第八月五日我七月九日倫敦ヨリ

本日佛政府ノ報告書ニ普兵ランテル邊リ近ク

ノ樹林中ニ埋伏屯集セシガ佛ノ歩兵三レジメント騎兵一ブリケイドニテ之ヲ襲撃シ数時劇戦ニ及ヒシ後佛兵ハコルヂテビセヲンヌノ地ヘ引退キタリ

此利時ヨリ佛普両國戦争ノ景状ニ注意シ探索ノ為メニ出シタル兵隊リエージュ比利時府ノ名ヨリアーケン普ノ府名ニ至ル迄ノ大路ニ陣ヲ取リタリ

佛帝拿破崙及ヒ其太子サールブリュックノ戦ニ臨ミタリ此戦ニ於ルヤ佛兵再度ノ進撃ニ及ヒシ後遂ニ普兵ヲ其地ヨリ追攘シタリ

リユテル氏ノ傳信機報告ニ佛ニテハ普人ノ佛國ニ出入スル者ニ往来切手ヲ與フ可シトノヿヲ言送リタリ

普ノ太子兵ヲ引率シテワイセンブル佛ノ小府ヨリ更ニ進ミテ佛ノ地ニ侵入セシガ其鋭勢熾ニシテ佛兵之ニ敵抗スル者少ナカリシ其邊ノ村落ニハ佛兵ノ死傷人尤モ多カリシト

第八月七日我七月十一日巴勒ヨリ孟買卿ノ府名ニ達シ

タル傳信機ノ報告ニ佛兵大ニ敗北ニ及ヒ巴勒ハ殆ント敵兵ニ迫ラレントスルノ勢ニ至レル由ナリ」歐羅巴各國ノ大戰爭突起スルヿモ有ランカト人々皆恐怖懸念スルニ至レリト

第八月四日我七月八日倫敦ヨリ

普ノ新聞ニサールブリュックニ在ル普兵ノ分隊佛兵ノ為ニ歩兵三ヂヒジヲン及ヒ大砲二十三門ヲ以テ襲擊セラレ防戰スルヿ能ハスシテ兵士少シク傷損ヲ受ケ遂ニ其地ヲ引退キ近傍要害ノ地ニ據レリ

佛ノ新聞ニ此戰ニ出テシ普兵ハ一万乃至二万人ニ及ベルガ佛兵ノ散弾ヲ以テ擊殺セシ敵兵尤モ夥シクシテ佛兵ノ傷損ハ僅ニ十一人ニ過ザリシト

普ノ第七番隊サールルイストサールブリュックトノ間ニ陣ヲ取レリ

普兵ハトレベス（普ノ府名）ヨリ引退キタリ

最近新聞ニ普兵一捷戰ヲ得タリシガ其損傷モ

亦甚ダ多カリシ事ヲ記シタリ

普ノ太子ノ率ヒタル兵ウエスセンベルク佛ノ小府ヲ攻取リ佛兵ヲ攘卻シ敵ノ健兵五百人ヲ生擒シ佛將ヅーエーモ此戰ニ死シタリ普兵ニ於テモ亦大ヒニ傷損有リシ

魯西亞ノ新聞ニ我魯兵ルマニヤ魯ト土耳其トノ國ノ名ニ攻メ入タルトノ風説ハ全ク傳聞ノ誤ニ過メ魯ハ更ニ其邊ニ兵ヲ集メタルヿ之レ無シト記シタリ

同日倫敦ヨリ

英國為替座ハ両國ノ戰爭ニ就キ其引替ノ割合ヲ六分ニ增シタリ

羅馬高僧ノ會議ニテ其國ノ教皇ハ総テ實ニ言行一致ニシテ凡百舉措共ニ過失無キヿヲ決議スルニ至レリ

第八月三日我七月七日倫敦ヨリ

普王メイヤンス府名普ノ到著シタリ昨日佛ノ兵船隊蓮國フリデリックスハーヘン港ノ沖ニテ南

方ニ向ヒ駛ルヿヲ目擊セシ者アリト

巴勒刊行ノシュルナル、ヲフヒシユールト云ヘル新聞ニ佛ノ兵端ヲ開キシ從來ノ目的ハ普ノ日耳曼及ビ南方ノ諸國ヲ靡服侵掠セントスルヲ防護シ且墺國ヲ討滅セントスルヲ救援スルニ在リト

第八月二日我七月六日倫敦ヨリ

佛兵既ニ羅馬ヲ引退ントスルニ及ビタリ又以太利ハ佛ト結ビタル契約ヲ循守セントナリ

英國議院ニ於テヂスレーリ氏此度ノ戰爭ニ英國ハ不虞ノ兵備ヲ為シテ中立ス可シトノ論ニ及ヒシガグレッドストーン氏其說ヲ非トシ唯陸軍ノ兵數ヲ增セルヿハ同意スベシト述タリ

昨夜議院ニ於テカルドウヘル氏海陸軍ノ兵數ヲ增サンガ為ニ豫備シタル金高ニ更ニ二百万ポンド我千万両ニ當ルヲ增ス可キヿヲ述タリ

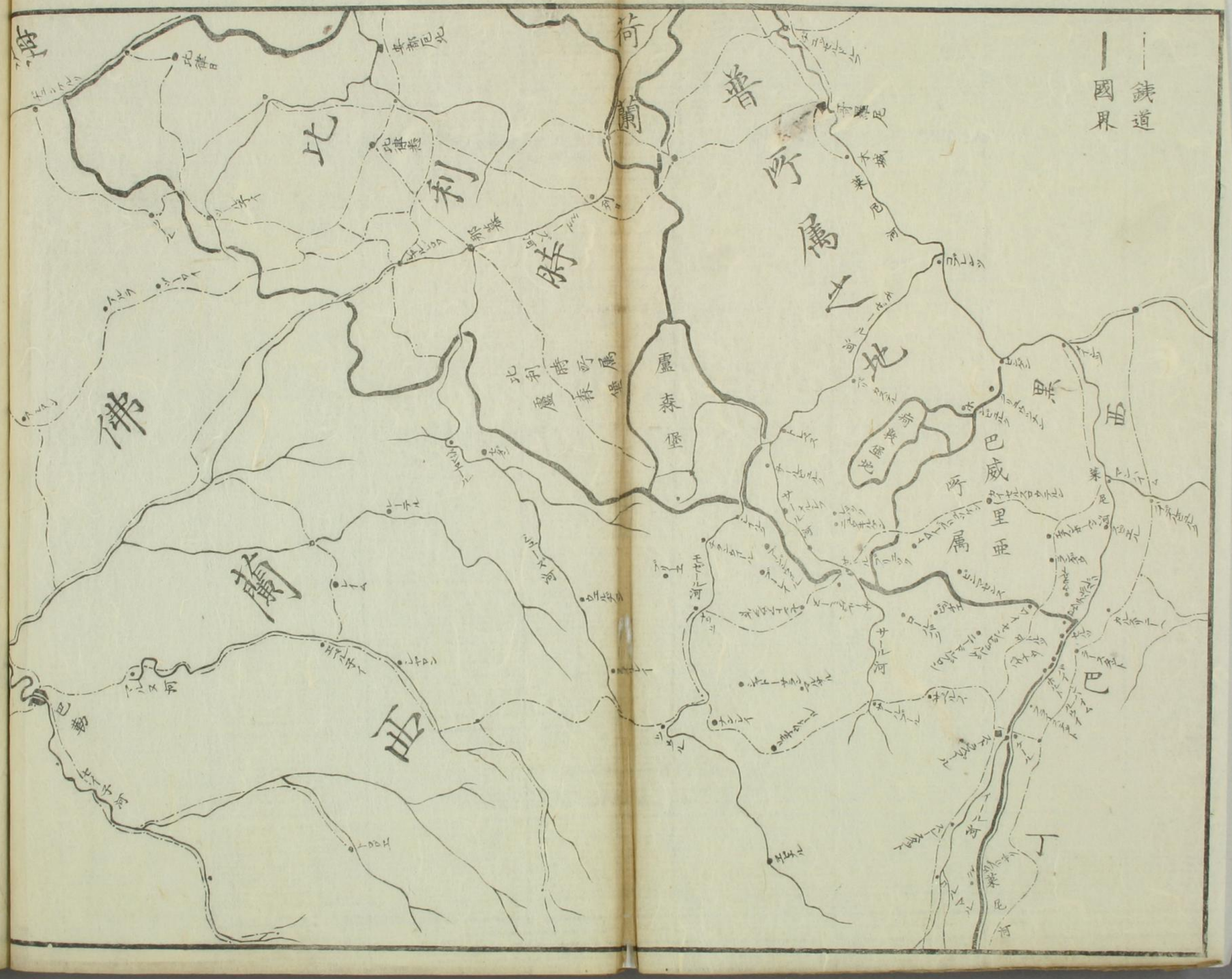
海外新聞七号畢

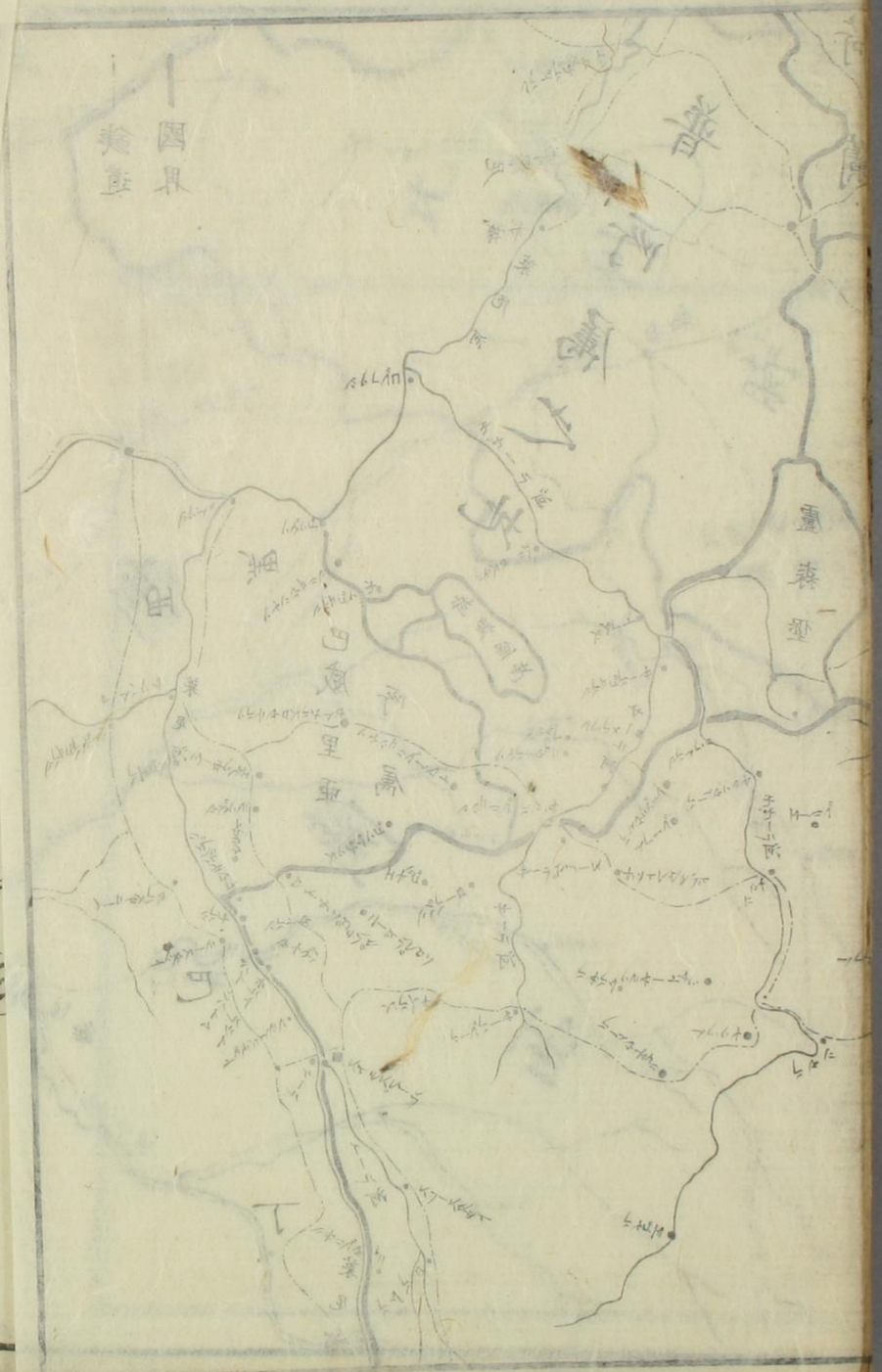
海外新聞八号

千八百七十年第九月一日 我八月六日 横濱刊行

チャツパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

米利堅ニテ加利福尼ト支那トノ間ニ海中ノ傳





海外新聞八号

千八百七十年第九月一日 我八月六日 横濱刊行

ヂャツパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

米利堅ニテ加利福尼ト支那トノ間ニ海中ノ傳信線ヲ設造セントスルノ舉アリシカ未タ公會ニ於テ論決一定セザリシ偖政府ヨリ此舉ヲ助ンガ為メニ傳信線ノ會社ヘ土地ヲ与ヘントノ說アリシニ之レヲ拒ム者多クシテ遂ニ行ハレズ尓後又此舉ニ就キ二十年間ニ五十万元ノ金高

ヲ政府ヨリ助力センヿヲ允許スベシトノ旨ヲ記シタル議案ヲ公會ニ呈セル者アリテ方今既ニ上院ニ於テ此議案ノ商議ニ及ビシガ終ニ其允許ヲ得可キヤ否未ダ必レ難シ其故ハ上院ノ外國事務掛リ等概シテ皆海中ノ傳信線ヲ造ル會社ニ土地又ハ金高等ヲ以テ助力ヲ為スヿヲ拒ントノ決議アレバナリ○此海中傳信線ヲ以テ報信ヲ達スルノ入費ハ加利福尼ト支那トノ間ハ十語毎ニ正金三十元トシ加利福尼ヨリ三

維斯島迄十元三維斯島ヨリミドウェイ島加利福尼ト日本トノ間ニアル小島迄五元ミドウェイ島ヨリ日本迄十元トセリト

米利堅ヨリ巴那馬地峡ニ堀割ヲ為サントノ擧ニテ其地ノ測量ノ為メ遣ハセル者ヨリ第五月三十日我五月朔日迄ノ報告ヲ得タリ其報告ニ未ダ其地方ニ自由ニ經過シ得可キ徑路ヲ撿出スルヿナカリシガ剩ヘ暴雨ト炎熱トニテ大ニ之レガ障碍ヲ為シタリ既ニ第五月廿七日我四月廿七日ニハ

皆此役ニ倦テ歸國ヲ促スニモ至リシガ指揮官セルフリヂノ説ニ暫時猶此地ニ滞在シ苟セ一度ハ此地峡ノ一方ヨリ又一方ニ至ル迄ヲ測量セント述シヨリ衆皆之ニ從ヘリ然レドモ猶山壑ノ間堀割ヲ為ス可キ低地ヲ撿出スルヿ無リシ因テ皆大ニ失望スルノミナラズ衣服敝裂心體疲羸ニ至リシヨリ此地ニ留マルヿヲ恐レテ遂ニ逃亡セル者五人ニ及ベリト

普國太子ノ妃英吉利ヨリ嫁セシ者今度女子ヲ出産シタリ

米利堅太平洋銭道ノ蒸氣車プラッテ河邊近クニ来著セシ時其器械ヲ掌レル者インヂアン人亜米利加州ニ住スル三百人許リ銭路ヲ過ルヲ目撃シタリシガ其蒸氣車ノ接近セシ時何圖ラン彼インヂアン人等大喝發聲シタルヲ以テ其器械ヲ掌ル者以為ラク必ズ蒸氣車ヲ襲撃セントノ意ナラント蒸氣カヲ十分ニ強クシ迅速ニ進走セシメシカバ彼インヂアン人之ニ觸レテ死ス

ル者十三人モアリキ

千八百七十年第九月三日我八月八日　横濱刊行

同上新聞ヨリ抄譯ス

横濱ニ在ル仏蘭西人等本日ヲテルデコロニー
ト云ヘル旅舍ニ集會シ此地ニ在ル同國人ヨリ
金ヲ集メ本國ノ戰爭ニテ疵傷ヲ受ケタル兵士
扶助ノ為メニ之レヲ巴勒ノ官舍ヘ逓送ス可キ
事ヲ掌レル人〻ヲ定メ任ジタリ此集會ニハ此
地ニ在留セル佛人大抵擧テ出席セシガ右ノ事

ヲ委任セラレシ人々ハワルマール委任ラベル長
クリペーレトツクビュバン等ノ數人ナリシ此擧
ハ實ニ此地ニ在ル佛人ノ為メニ大ニ名聞ヲ得
面目ヲ施セル者ト謂フベシ
ヲーセン、クイーン名号ノ英ノ蒸氣船去年第十
二月中我去年十一月ニ破船セシ時及ビ其後エリザ、コ
ルリー名号ノ帆船破損ニ及シ時日本ノ役人及
ヒ其他日本人ヨリ其破船ノ溺死ヲ免レタル者
ヲ懇切ニ処置シタルノ謝礼トシテ今度横濱貿

易事務ノ會議ヨリ二百ホンド我千両許ノ金高ニ當リヲ集メ之ヲ英ノ公使ヘレハークス氏ノ意ニ隨テ其厚誼ニ報ヒテ配分セントナリ

千八百七十年第九月二日我八月七日 横濱刊行

同上新聞ヨリ抄譯ス

日本ニ来ラントスル普國ノ醫士ノ事ニ就キ新聞ニ記セルハ普國歩兵第四十八番隊ノ醫官タルドツトルミュルレル氏今度日本ニ来レル醫士ノ長トナリテ江戸ニ在ル醫學校ノ指揮ヲ為スヿヲ任セラル可シト此ミュルレル氏ハ千八百五十六年ヨリ千八百六十七年迄海地島ニ在テ是等ノ職務ヲ行ヒ大ニ名譽ヲ得タル人ナリ又第二等醫士ハ其撰ニ預ント欲スル者極メテ多カリシガ海軍ノ補佐醫官ドクトルホフマント云ヘル人其撰舉ヲ得ルニ至レリトナリ

千八百七十年第七月三十日我七月三日 巴方西フランス

斯哥刊行ノ毎週新聞ヨリ抄譯ス

都伯林ブリニニテハ佛ヲ援ケントテ五千人許モ集會

ヲ為スニ至レリ

ジュールナル、ヲヒシヱル新聞ニ記セルニ佛政府ヨリ此度ノ戦ニ付佛ノ将帥等ハ中立國ニ對シテ萬國ノ公法ヲ循守シ殊ニ千八百五十六年ノ巴勒會議ニテ決定セル所大旨趣ニ基ク可キヿヲ布令シタリ其條件左ノ如シ

敵船ヲ掠奪スルガ為メニ苟モ政府ヨリ平民ニ兵船ヲ艤送スルノ免許ヲ與フ可ラザル事、中立國ノ旗章ヲ建タル船中ニ積載セシモノハ敵ノ

品物ト雖モ禁制品ニ非ラサルノ外ハ之レヲ掠奪ス可ラサル事、我國ノ兵船敵ノ港口ニ碇泊シ他國ノ船ヲシテ出入スルヿヲ許サヾラシメントニハ偏ニ我國ノ兵船其港口ノ出入ヲ鎖スニ足ル可キノ數ヲ備フルヲ要スル事等ニ在ナリ

西班牙

刊及ヒ米利堅ノ二國ハ兼テ此大旨趣ニ同心一致セサル國ト雖モ又禁制品ヲ除クノ外ハ佛ノ兵船ヲ以テ西米二國ノ商品ヲ掠奪スルヿ無レ可ク又佛ニテ敵船ノ中ニ在ル其二國ノ品物ヲ

奪ハントスルノ權ヲ得ント欲スルヿモ亦無ル可シト

此度ノ戰ニ於テ佛ニハ大砲ヲ載セタル小兵船最モ必要タル可シ其故ハ往ニ米利堅戰爭ノ時ノ如ク葉泥(ライン)モゼール サール等ノ河ニ之ヲ用ヒテ大ナル利アル可キヲ以テナリ其小兵船ハ皆大砲一門戰士十二人ヲ載セロイテナント官之レヲ指揮セリ普ニハ是等ノ小兵船ヲ備フルヿナカリシ

此度ノ戰爭ハ兩國共ニ雄力相抗シ匹敵ノ大軍ヲ以テ戰フニ在レハ畢竟雙方共ニ其兵ヲ指揮スル將帥ノ智畧ト武勇トニ賴テ勝敗ヲトス可シ夫レ普兵ヲ指揮スルゼ子ラールモルトッケナル者ハ千八百六十六年墺地利トノ戰ノ時策畧ヲ以テ遂ニ墺兵ヲ敗衂セシメタルノ名將ナリ又普ノ太子タルフレデリック、ウイルレム及ヒ王族フレデリック、チヤールスハ皆同年ノ戰ニ勲功ヲ奏セシ人々ナリ然レ氏其他普ニテハ大軍ヲ

指揮スルノ任ニ當レル將帥アルヤ未タ知ラサル所ナリ加之普兵ノ軍績赫々タルハ千八百六十六年墺ト戰フタル事ノミニテ其外戰ニ臨ミタルヿモ亦稀ナレハ概シテ之レヲ論スル時ハ數度ノ戰爭ヲ歷テ兵務ニ熟達スルニ至リテハ佛ノ方普ニ優ルヿ數等ナリトセン

佛ノ委任ヲ受タル將帥ノ名ヲ掲示セン先其一人ハルマレシャルバゼイヌハ千八百十年ニ生レ巴勒ニテ兵法ヲ學ヒ阿爾及ニテ軍功ヲ奏シ又其後曾西亞ト戰ヒ大ニ功アルヲ以テ其賞トシテセパストボル城ノ鎮台ニ任セラレタリ又一ノ將帥マレシャルマクマホンハ千八百七年ニ生レ兵學校ニテ兵法ヲ學ヒ魯西亞トノ戰ニマラコフ嶽ヲ攻取リ其後墺國トノ戰ニ大ニ戰功アリシ人ナリ其他ノ將帥ニ至リテハマレシャルカンロベールハ魯トノ戰ニ功アリ又マレシャルルビューフハ墺兵ヲ擊敗セシヿアリ又コントパリコウハ支那トノ戰ヒニ捷ヲ獲マレシャルバラゲイヽヂ

リヱールハ有名ノ名将タリマレシャルホレイハ墨堤哥ニテ功ヲ著セシ者ナリ加之佛帝拿破崙自カラ将トナリテ其兵ヲ指揮セントセリ偖佛ノ将帥ハ皆第一世拿破崙帝ノ兵法ヲ學ヒタル者ニシテ固ヨリ智畧武斷兼備ス可シト雖モ普ノ将帥モ亦高名ナルフレドリッキ王ノ兵法ヲ學ヒ錬兵運籌ニ熟達スル者ナレハ遂ニ軒輊ノ辨無ル可ク亦勝敗ノ如何ヲ預シメ論シ難カル可シ

附録

第八月十三日我七月十七日

普兵メッツ佛國ノ府名城ニ迫ル○巴勒ニテ騒乱アリ執政皆廢黜セラル

第八月十五日我七月十九日

メッツニテ大戦争アリ○佛國ノ為替坐ニテ金銀拂方ヲ止ム

第八月十七日我七月廿一日

佛帝拿破崙メッツ府ニテ創傷ヲ被リ生擒セラル

其太子ハ英國ニ遁ル○一說ニ亦仏兵ノ一部其
皇帝ヲ敵兵ヨリ取戻サントテ劇戰セント決シ
タリト云フ

此新聞ハ未タ其信否ヲ知ラスシテ其顛末モ
亦明ラカナラスト雖ドモ今之ヲ得ニ任セ此ニ
附ス若シ其詳ヲ得ルニ方テハ之ヲ次号ニ記
ス可シ

譯者誌

海外新聞八号畢

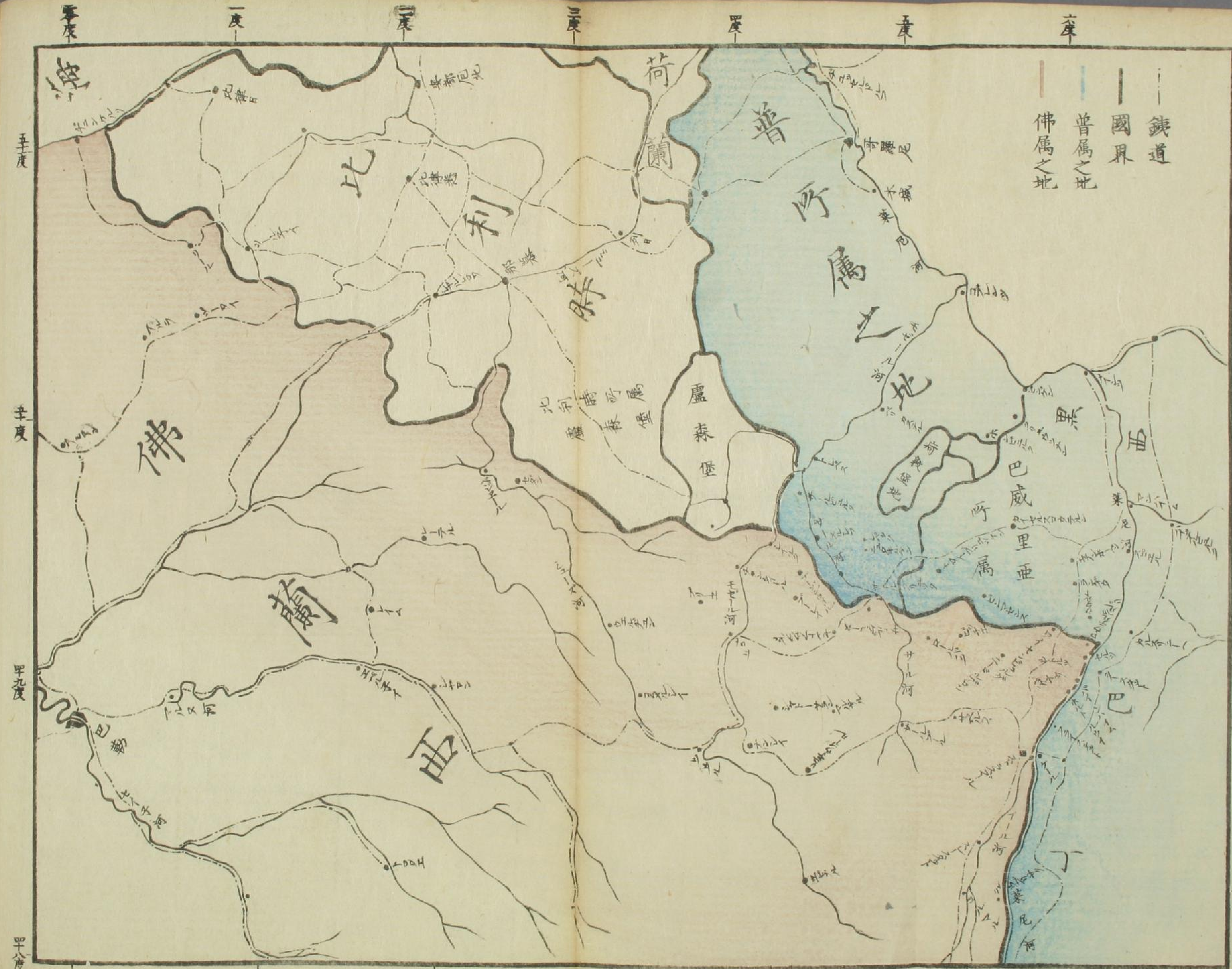
緒言

此號ニ譯スル所ノ佛普両國ノ戰爭ハ皆傳信機
ノ報告ニ出テ前後相錯雜シテ其中又互ニ齟齬
スル所アリ故ニ當事由ノ瞭如ヲ缺クノミナラ
スシテ敢テ信ヲ傳フルニ足ラスト雖ドモ姑ク之
ヲ刊布シテ看者ニ示ス其確證ノ如キハ之ヲ後
ノ報告ニ附ス

譯者識

海外新聞九号
千八百七十年第九月七日我八月十二日横濱刊行
ジャパンヘラルト新聞ヨリ抄譯ス

傳信機報告



海外新聞九号

千八百七十年第九月七日我八月十二日横濱刊行

ジャツパンヘラルト新聞ヨリ抄譯ス

傳信機報告

佛帝拿破崙ハメッツニ於テ創傷ヲ被リ敵ニ虜獲セラレタリ

佛國ノ太子ハ英國ニ送ラレタリ

佛國ノ為替坐ニテハ正金ノ拂方ヲ止メタリ

佛兵ハ大敗シテ死者六千人傷者五千人アリ

ストラスブールメッツナンシイ皆仏ノ府名ノ三地ハ皆普兵ノ為メニ攻取ラレタリ

佛國ノ執政ハ皆廢黜セラレタリ

佛國ニテハ拿破崙帝ヲ不適當ノ將帥ナリト為シ之ヲ誹謗セリ

佛國ニテ國民ノ年齡ノ二十五ト三十五トノ間ニアル者ヲ皆兵ニ召募シタリ

佛國ニ於テ人民皆大ニ奮勵ノ意ヲ生シタリ

漢泥ノ國境ニ事件アリ

佛帝拿破崙ハメッツニテ創傷ヲ受ケ普兵ノ為虜獲セラレ其太子ハ英國ニ送ラレタリト云フ傳信機ノ報告ヲ本日此ヘラルド新聞舗ニ於テ得タリ此新聞ハ慥ナル者ノ言送リシモノナリト雖ドモ未タ十分ニ信用ス可カラサルノ疑アリ

又此報告ニ因リ左ノ條件ノ消息ヲ得タリ

此時利國王ハ其國ノ議院ヲ開キシ時英國ノ自國ヲ保護シテ其中立ヲ保タシメント決定セシヿヲ報謝ス可キノ意ヲ述タリ

普兵ハメッツニテ大ニ勝利ヲ得タルト云フ風評アリ此戦ハ普王自カラ兵隊ノ指麾ヲ為シ戦捷ノ後日耳曼議院ニ其祝詞ヲ言送リタリト

佛國ノ飛脚船ドンチイ名号第七月廿四日我六月廿六日佛國ノ馬塞里ヨリ蘇士堀割亜丁ガール等ヲ通リ来レル佛國ノ書信ヲ以テ本日午時来著シタリ

第八月九日我七月十三日倫敦ヨリ英吉利ト印土トノ傳信線ヨリ達ス佛國ノ兵ハ大概皆メッツヲ繞リテ屯聚セリ

佛國ニテハ兵隊ノ總督ヲマレシャルバゼイヌニ任シタリ

本日佛國ノ議員ハ巴勒ニ於テ再ヒ集會シタリ

佛國ノ執政ハ皆退任セリ

佛國ニテパリコー氏新タニ執政ヲ任スルノ命

ヲ受ケタリ

佛國ノ執政ヨリ其國ヲ防禦ス可キヿヲ國民ニ告喻シテ相与ニ協力奮勵ス可キノ布令ヲ為タリ

方今戰地ニ屯聚スル佛兵ハアヘスヌニ於テマレシャルマクマホンノ指麾スル兵五万人及ヒナンシイニ於テマレシャルカンロベールノ指麾スル兵五万人等ニ至ル迄ヲ合算スルニ其総計二十三万人ナリ

普兵ハコルマル近傍ヨリ萊尼河ヲ越ヘタリトヿヲ説アレ氏謬傳ナリ

ホルバクサールゲミイヌハゲナウノ三地ハ皆普兵ノ所有トナリタリト

マレシャルマクマホンハゼ子ラールヘイリイトヿ互ニ再ヒ應援ヲ為ス可キノ所置ヲ為タリ

巴勒刋行ノジュールナルヲヒシマル新聞ニ普兵ノ大勝ヲ得タルニ因リ特ニ危殆ナルヿヲ説キ且政府モ國民モ皆相共ニ心ヲ協ヘカヲ戮セ

歐土ノ各國ヲシテ其國カヲ平等ニナシ相維持スルノ事ヲ助ク可キノ由ヲ辨明シタリ

其後戰ナシ

佛國ノゼ子ラル シャンガルニエーハ皇帝ニ面謁シタリ

佛蘭西東北ノ諸州ハ盡ク戒嚴セリ

ウヲルトニ於テ佛兵大敗シ其死傷ヲ總計スルニ其數五千人虜獲セラレタル者ヲ總計スルニ其數六千人ナリ又ベレシャルベクベホンノ兵隊ハ輜重食料等ヲ打棄タリ普ノ騎兵ハ佛兵數千人ノ皆兵器ヲ棄テ逃走スルヲ追躡シテ遂ニ之ニ及ベリ又普兵ノ死傷ハ之ヲ總算スルニ三千五百人ナリ（佛文ノ新聞ニハ普兵ノ死傷佛兵ヨリ更ニ多シト云ヘリ）

第八月十日（我七月廿四日）倫敦ヨリ印土ト歐羅巴トノ傳信線ヨリ達ス昨日佛ノ議院大ニ動揺シ議院ノ左側ニ坐スル者（共和政治黨ノ者）ハ皆拿破崙帝ノ不適當ノ人ナルヿヲ唱ヘ之ヲ呼返ス可キヿヲ求メタリ

佛國ノ政府ニテ明歲召募ス可キ兵ヲ速ニ徵集ス可キカ為メ「ガルドモビール」(佛ノ國内ヲ防禦スル兵ノ一部ヲ常備兵ノ中ニ編入セントシタリ

又千八百五十八年ト千八百六十三年トニ於テ既ニ兵籍ヲ脫シタル獨身ノ兵卒ヲ復タ召募ス可キ建議ヲ為ス者アリシカ之ヲ採用シタリ

佛國ノ甲鐵船隊ハ再ヒドブル海峽ヲ越ヘタリ

同日午後マレシヤルバゼイヌハメッツニ屯聚シタル佛兵ノ總督ノ任ヲ得タリ

マレシヤルマクマホンハナンシイニ退テ其兵ヲ召集シタリ

佛兵ハ昨日河邊ノ備ヲ棄テモゼール河ヲ越ヘテメッツニ引退キタリ普ノ騎兵ハメッツ及ヒナンシイノ近傍ポントムウサンノ邊ニ至レリ

マレシヤルバゼイヌハ萊尼河邊ノ佛兵ノ第二隊第三隊第四隊ノ總督ノ任ヲ得ゼテラールフロシユハシヤロンニアル佛兵ノ總督ノ任ヲ得タリ

普ノ斥候兵ノ昨日モセイル河ノ近傍ノ地ニアルヲ見タリ

普兵ノ一分隊一時ポントムウサンヲ得タリシカ復ヒ佛兵ノ為メ追戾サレタリ

メッツニアル佛兵ハ日々救援ノ兵来著セリ

第八月十四日我七月十八日巴勒ヨリノ新聞ニ普ノ騎兵一分隊ニテナンシイヲ取リシト云フ官報ヲ得タリ

第八月十一日我七月十五日朝倫敦ヨリ英吉利ト印土

トノ傳信線ヨリ達ス）サールブリユクヨリ前日ノ夜半ニ達シタル報告ニ佛兵ハモゼール河ヲ越テ引退キ普ノ騎兵ハ劇シク之ヲ追掛ケ佛ノ境内ノサールウルデングランタンカン、ハルクモンヘニストランヂ等ノ地ヲ通行シタリ

佛兵ハ勇ヲ奮テ決戦セシカ兵数ノ足ラサルニ因リ終ニ敗走シタリト云フ

第八月十日我八月十四日倫敦ヨリ印土ト歐羅巴トノ傳信線ヨリ達ス）英國議院ノ上下院ニ於テ比利

時中立ノ事ニ付キ英佛普三國ハ互ニ結ヒタル
條約ノ事ヲ議セシカ英國政府ノ處置ヲ善トス
ル者多シトナリ
本日英國女主ヨリ告諭シタル言葉ニ英國ニ於
テハ外國トノ交際ニ故障ナク且今度歐羅巴ノ
大陸ニ於テ戦爭ノ起リシ事ハ公私ノ為メ殊ニ
慨歎ス可キノ意ヲ説キ加ヘ英國ハ中立ノ權ヲ
保チテ兵禍ノ諸國ニ波及スルヲ防止シカヲ尽
シテ速ニ和平ニ至ラシム可キ事ノ處置ヲ為ス

可シト述ヘタリ
第八月十一日我七月十五日倫敦ヨリ印土ト歐羅巴ト
ノ傳信線ヨリ達ス
其四方ヲ圍ミ且已勒ト里帰トニ至ル可キ鐵道
ヲ有シタリ然ルストラスブールハ普國ノ兵
テ普國ニ降ルノ意ナシ
第八月十日我七月十四日倫敦ヨリ比利時ノ中立ヲ保
證シタル條約ハ普國ノ公使コントベルンスト
ルフ及ヒ英國ノ執政ヲールグレンウイルノ両

人昨日其書ニ調印ヲ為シタリ佛國公使モ亦其條約ニ調印ヲ為ス可キノ全權ノ任ヲ受ケタリ」

第八月廿二日我七月廿六日ストレートタイムス新聞ニ巴勒ハ人心大ニ動揺シタリト云ヘリ

佛國ノ新聞紙ニハ其國内ノ人民ハ擧ツテ兵隊ニ入ル可ク且皆勉勵シテ兵事ニ注意ス可キヿヲ記シタリ

火曜日ニサールブリユクヨリ得タル報告ニ土曜日ニ佛兵サールブリユクノ西ニ於テ大ヒニ

敗走シ死傷數最モ多ク敵兵ニ擒獲セラレシ者既ニ二千人ニ及ヒシカ其他猶擒獲セラルヽ者アリ然ヒ普ノ損傷モ亦少カラスト云ヘリ○普兵ノ先鋒隊ハメツヨリ日耳曼里法二里ノ地ニアリ

第八月十一日我七月十五日朝巴勒ヨリ佛國ニテ新タニ執政ヲ任シパリコー氏ヲ軍務執政シブロウ氏ヲ國内事務執政マーグ氏ヲ會計執政ラツウルヽヲウベルグ氏ヲ外國事務執政ト為シタリ

佛國ノ議院ニ於テ政府ノ軍策ヲ決議シ二十五歳ヨリ三十歳ニ至ル迄ノ嘗テ兵籍ヲ脫セシ兵卒及ヒ獨身ニシテ且子ナキ士民等ヲ盡ク召募ス可キ議案ヲ出シタリ又兵隊中ノ者ヲ犒フ可キヿヲモ亦議案ニ出シタリ水曜日ノ朝ハ靜謐ナリ

第八月十二日我七月十六日倫敦ヨリ佛國ノゼ子ラールルビューフハ萊厄河邊ノ兵隊ノ総督ノ任ヲ退キタリ

佛兵ハメッツノ近傍ニ陳ヲ布キクリ

普國ノ王族フレデリックチャールレスノ兵隊トノ戰アラントス

普國ノ士民ノ佛國ニアル者ハ槩子皆其國ニ放還セラル可シ

第八月十二日我七月十六日倫敦ヨリ印土ト歐羅巴トノ傳信線ヨリ達ス普王ノ佛國ノ士民ニ布令シタル其言ニ曰ク曼人ハ佛蘭西人ト相親睦シテ交誼ヲ厚セント欲セリ故ニ佛國ノ兵隊トハ互

ニ交戦ヲ為ス可シト雖モ敢テ其人民ニ對シ戦鬪ヲ好ムニ非ラス若シ佛國ノ人民ノ日耳曼ノ兵隊ニ相抵敵スルヿナキ時ハ必ス其人民ノ保護ヲ為ス可シト云ヘリ

佛國ノ動静ニ因リ西班牙ノ首都馬德里（マドリット）ニアル共和政治黨ノ者大ニ動揺シタリ

第八月十三日我七月十七日倫敦ヨリ」ヲルレアン昔時佛國ノ王位ニ登リ系ノ者ノ屬類シ者ノ佛國政府ニ録用ヲ得ンヿヲ欲セリ

普兵本日ナンシイ府ヲ得タリ

普國ノ騎兵リュ子ウイルニ於テ勝ヲ得タリ

千八百七十年第九月八日我八月十三日横濱刊行佛文エコー、ジュ、ジャッポン新聞ヨリ抄譯スル第八月十三日我七月十七日倫敦ヨリ普兵ハナンシイヲ得タリ

佛國ノ報告ニ佛ノ太子ハ常ニメッツニ在ルヿヲ證セリ

佛國ノ兵船隊ハ當時バルチック海岸ノキイル港普國港名ノ冲ニアリ此地方ニ於テ重大ノ事件アル可シト人皆思ヘリ佛蘭西ハ方今ノ時勢ニ於テ

ハ和議ヲ為ス可キ談判ヲ拒メリ

第八月十四日我七月十八日倫敦ヨリ昨日メッツヨリ得タル報告ニ此一日ハ兵ノ進退ナカリシ佛國ノ援兵来着シ又義勇兵ノ来ル者甚タ多シ萊尼河ノ左岸ハ静謐ナリ」ストラスブールノ囲ハ敵ノ謀計ニ出シト見ヘタリ

普國王其兵ノ得タル地方ニ於テ兵ヲ召募スルヿヲ禁スル布告ヲ出シタリ

佛國ニテ日耳曼ノ北西ノ海岸ハ船ノ出入ヲ禁スルノ布令ヲ為シタリ

普國ノ本陣ハ當時ヘルニイニアリ其先鋒ノ兵ハポンタムーソンニ屯セリ

佛ノ官報ニ佛ノ兵船隊ノキイルノ沖ニアルヿヲ記シ且連國人ハ拳ツテ佛國ヲ助ク可キノ意アルヿヲ記セリ

日耳曼人ノ家族千四百箇巴勒ヨリ放逐セラレ哥羅尼ニ来着シタリ日耳曼ニテハ佛國ノ此處置ヲ為タルヲ大ニ怒リシトナリ

第八月十五日我七月十九日倫敦ヨリ伯靈ノカセットヲベルリン
ヒミエル新聞ニ普國政府ハ平穏ナル佛蘭西ノ
士民ヲ追放スルナカル可シト云ヘリ
巴勒ヨリノ報告ニ佛ノ議院ニテハ戰爭ノ費用
ニ備ヘントテ更ニ十万々フランクノ金額ヲ增
シ且紙幣ヲ二十四万々フランク程モ增タリ
第八月十五日我七月十九日倫敦ヨリノ報告第八月十
六日我七月廿日錫蘭島ノガールニテ落手ス
普王ノ傳信線ノ報告メッツニテ戰勝アリ第一番

隊及ヒ第七番隊ノミ其戰ニ預レリ
普王ハ自カラ戰場ニ至レリ
新嘉坡ノ私ノ傳信機報告拿破崙帝メッツニテ創
傷ヲ受ケ虜獲セラレメッツ城ハ現今普兵ノ所有
トナリタリ佛蘭西ノ為替坐ニテ金額ノ拂方ヲ
止メタリ普國ノ騎兵リュツウイルニテ戰勝ヲ得
タリ
余等此新聞ヲ讀ム者ヲシテ注意セシム可キ
為メ此ニ數言ヲ贅ス元来傳信機ノ報告ハ事

ノ相齟齬スルモノ多クシテ全ク信スルニ足ラズ加フルニ今度飛脚船ノ消息ニ因リ得ル所ノ此新聞ハ其事端相錯雜シテ詳明ヲ盡スヿ能ハズ今之ヲ細カニ考究スルニ意フニ我國佛國ヲ云ノ敵ニ於テハ唯僅々ノ戰勝アルノミナル可シト雖モ亦我國ノ形勢ノ或ハ康寧ヲ欠クノ事アル可キハ確知ス可キ所ナレリ然ルモ戰ハ之ヲ前ニ僥倖シテ後ニ敗衂ヲ致スモノ古ヨリ儘少カラス故ニ我國ニ於テハ竟ニ戰

勝ノ利ヲ日後ニ收ムルノ功アル可クシテ是我等ノ希望スル所ナリ

ヱコー、シュ、ジャツポン 新聞舗ニテ記

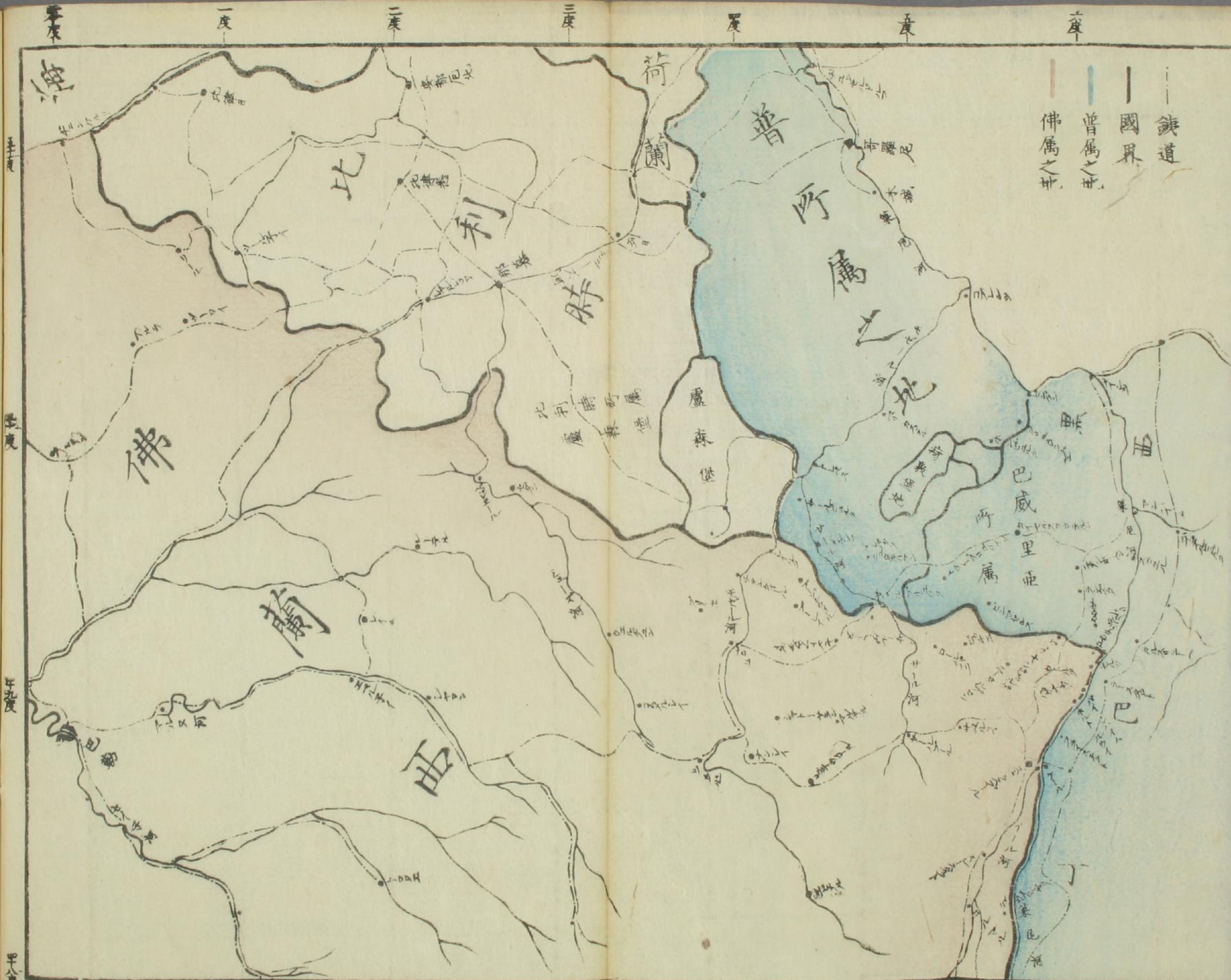
海外新聞九号畢

海外新聞十號

千八百七十年第九月十四日我八月十九日横濱刊

行エコージユシヤツポン新聞附録ヨリ抄譯

ス



海外新聞十號

千八百七十年第九月十四日我八月十九日横濱刊行エコージュシャツポン新聞附録ヨリ抄譯ス

第八月十五日我七月十九日巴勒ヨリ官報ニ佛蘭西皇帝其太子ト共ニウエルシュンニ赴ンガ為ヌニ昨日午後第二字ニメロツヲ發行ニ及レフヲ記シタリ

昨日午後佛國ノ兵隊モゼール河ノ左岸ニ屯集

センガ為メニ其河ヲ渡レリト

昨夜第十字ニロングウイール（チオンウイル歟）ヨリ送レル佛皇帝ヨリノ報告ニ佛國ノ兵隊河ヲ半ハ渡ラントセシ時普兵大軍ヲ以テ之ヲ襲ヒシガ四字間ノ戦争後普兵ニ許多ノ損失ヲ受ケシメ之ヲ追攘シタリトナリ

第八月十六日（我七月廿日）倫敦ヨリ「阿尔及（亜非利加アルゼリー洲ニ在ル佛國ノ属地）ハ攻圍ノ形状ニ處スベキヿヲ布令シタリ（攻圍ノ形状トハ暫ラク通常ノ法律ヲ以テ其地ヲ治ルヿヲ止メ兵ノ法律ヲ以テ之ヲ治ル

ヿヲ云フ）サンガルド隊（佛國皇帝ヲ解散セシメタリノ親兵）

巴勒郭外ノ地（ラウイレット）ニテ騒亂ノ事アリ

佛兵ノ将帥タルマレシャル（マクマホン）ヨリノ報告ヲ未タ得ルヿナシ

ツウル（佛ニ属スル府名）ハ敵兵ニ降レルヿヲ拒ミタリ」

同日倫敦ヨリ」去ル日（我七月十八日）ノ戦争ニ就キ普ノ宮報ニ普兵ノ第一番隊及ヒ第七番隊ハメッツ城ノ外ニテ劇シク佛兵ヲ襲ヒ血戦ノ後遂ニ

佛兵ヲ其城内ニ追卻シタリト

佛兵ノ損失ハ四千人ニモ及ヒタリシ

同日巴勒ヨリ本日佛ノ議院ニ於テコントパリコヲノ云ヘルハ普兵ハ佛兵ノシャロンニ引キ退クヲ遮キリ佛ノ兵隊諸方ヨリ其ノ地ニ羣集スルヿヲ妨ケントノ謀ヲ止メタリ

官報ニ非ザル報告ニ普兵三四回戦争ノ後ニコムメルレイノ方ニ進ミシガ後遂ニ佛兵ノ為メニ支ヘラレタリ

第八月十七日我七月廿一日倫敦ヨリ」日耳曼ヨリノ報告ニストラスブールニ在ル佛ノ守兵昨日其城ヲ出テ敵兵ヲ襲ヒシガ大砲三門ヲ失テ追卻サンタリト云フ

マレシャルマクマホンノ残兵ハシャロンニ来著シタリ」

佛ノ報告ニ佛ノ将帥マレシャルバゼイヌハ敵兵ノシャロンニ至レル以前ニ大戦争ニ及フヿ無ルベシト云ヘリ

以太利ノ政府ニテ更ニ兵ヲ募集シ國内ノ防禦

ヲ為セル費用ニ充ンガ為メニ四千万(フランク数)ノ金高ヲ得ントスルニ至レリ

マッシニハパレルモニテ生擒セラレタリ

第八月十八日我七月廿二日巴勒ヨリ去ル水曜日我七月廿一日第四字ニマレレヤルバゼーヌヨリ傳信線ニテ言送リタル官報ニ昨終日ダンクウルトビオンウイルトノ間ニテ普兵ト戦ヒシコトヲ述ヘ之ニ副言セルハ佛兵ハ敵兵ヲ追卻セシ後其ノ地ニテ夜ヲ明シ又新タナル弾薬等ヲ得ンカ為

メニ數時間兵士ヲ休息セシメタリ此時佛兵ハ普ノ王族フレデリックチャアレス及ビゼ子ラールスタインメッツノ兵ト戦ヒニ及ビタリ

同日巴勒ヨリ一昨日ノ戦ニ付佛ノ官報ニ普兵至ル所追卻セラレ許多ノ傷損ヲ受ケ佛兵ノ損失モ亦許多ニシテゼ子ラールバタイユハ創傷ヲ被リタリト云フ又ゼ子ラールトロシユウハ宮殿ノ監督ニ任ゼラレ且巴勒府ヲ防禦スル兵ノ指麾官ヲモ兼任シタリトナリ

同日巴勒ヨリ官報ニ墫破崙帝ハ昨夜シヤロンニ来着ニ及ビタリ

佛兵ハ普兵ノ襲撃ヲ追ヒ退ケ漸々ニシヤロンニ羣集シタリ

マレシヤルマクマホンノ兵ハマレシヤルバゼイヌノ兵ニ合併シタリシ

普兵ハルスブールヲ襲ヒシガ千三百人ノ損失ヲ受テ退攘セラレタリ

昨日グラベロットノ劇戰ニテ佛兵戦勝ヲ得タリシガ其傷損モ亦多カリシ

巴勒府ヲ防禦センカ為メニ兵粮ノ用意ニ及ヘルヽ頻ナリ

第八月十九日我七月廿三日倫敦ヨリタイムス新聞ノ報告者ヨリ傳信線ヲ以テ告知セルニ佛兵ハ普兵ニ戦勝ヲ獲ラレタルカ為メニ互ニ相隔リタリシガ去ル火曜日我七月廿日ニ佛兵ノ大軍メッツノ方ニ追ヒ退ケラレ普兵ノ第一番隊及ヒ第二番隊ノ為メニ行進ヲ支ヘラルヽニ至レリ

普ノ王族フレデリックチヤアレスハ第三番隊ヲ率ヒレヤロンニ在ル佛兵ト戰フニ及ブベシトナリ

第八月十八日我七月廿二日倫敦ヨリ普國王ハロルレイン及ヒアルサース此ノ二州ハ普兵ノ新タニ攻メ取リシ地ナルベシノ奉行ヲ任ジタリ

佛ノ官報ニ佛兵グラベロットノ近傍ニテ戰勝ヲ得タリシガ其傷損モ亦多カリシ

本月十七日我七月廿一日ニポンタムウソンヨリ送リタル官報ニ昨日普兵ヲ指揮セルゼ子ラールアルヘンセンハ三隊ヲ率ヒテウエルジュンノ方ニ敵ノ退キシ通路ヲ經テメッツノ西ニ進ミタリ

普ノ第十番隊ト仏ノゼ子ラールデカンラドミロウフロッサールカンロベールル等數人ノ指揮セル仏兵及ビ仏帝ノ親兵ト戰ヒニ及ヒシガ普國王族フレデリックチヤアレスノ指麾セル第八番隊及ヒ第九番隊来リテ普兵ヲ援ケタリ仏兵

ハ敵ヨリモ其兵数多カリシガ十二字間ノ劇戦ノ後遂ニメツツニ追却セラレタリ

双方ノ兵ノ損失甚多クシテ普兵ノゼ子ラール二人戦没シ二人創傷ヲ被リタリ此戦ニハ普兵全勝ヲ得敵兵ヲ生擒シタル其数二千人ニシテ旗二桿大砲七門ヲ獲タリ（此度少シク疑無キニアラズ）

私ノ報告私ノ報告ニ普國ノ太子フレデリックウイルレムハ仏兵ノ為メニ創傷ヲ受ケ生擒セラレタルヿヲ告知セリ

此新聞ノ信否殊ニ疑ハシ　譯者誌

千八百七十年第九月十四日我八月十九日横濱刊行日刊新聞ヨリ抄譯ス

英吉利ト印度トノ傳信線ヨリ

千八百七十年第八月十九日我七月廿三日倫敦ヨリ普王ヨリ傳信線ヲ以テ報告シタルニ佛兵木曜日

我七月サ二日ニレザンウ井ルノ近傍ニテ全ク敗走シメッツニ追却セラレ巴勒トノ往来ヲ断截サレタリ

第八月サ日我七月サ四日倫敦ヨリ萊尼(ライン)河ノ右岸ケールノ近傍ヨリストラスブウル城ヲ攻撃ニ及ヒシヿ昨日ヨリ始マレリ○一昨日ノレザンウイルノ戦ハ九字間ナリシ佛兵ハ嚴ニ防禦ノ用意ヲナシタリシガ遂ニ普兵ノ為メニ襲撃セラレタリ此ノ戦ニ付未タ佛ノ報告ヲ得ルヿ無シ

英ノ政府ノ印度ニ於テ使役スル印度人ノ兵隊ニスナイドル銃ヲ備フルノ用意終成セシヿヲ印度ノ鎮台ニ言送リタリ又印度ニテ騎砲隊及ヒ歩砲隊ノ二十六バッテリイヲ用意ニ及フベシトナリ

第八月サ五日我七月倫敦ヨリ伯靈(ベルリン)ノ官報ニ佛ノ大軍本月十八日我七月サ九日ノ戦ノ後ニメッツノノ城内ニ引キ退キタリト云フ又普兵ノ損失モ夥多ナリト云ヘリ又ハルスブウルハ遂ニ普兵

ニ降レルノ由ナリ

第八月廿一日我七月廿五日倫敦ヨリ本日ポンタムウソンヨリ送リタル報告ニ本月十四日我七月十八日十六日我廿十八日我廿二日ノ三日ノ戦争ニテ佛兵ノ損失ハ死傷生擒ヲ合算シテ其数五萬人ニ降ラズ又其外ニ十八日我廿二日ニ敵ニ生擒セラレシ者其数四千人ニ及ベリト云フ

第八號第七號ニ記載セシ佛帝拿破崙普國ニ生擒セラレ及ヒ佛國ノ太子英國ヘ逃レシトノ事ハ此新聞ニ依ル時ハ全ク一時傳聞ノ誤リヨリ出ルモノナラン既ニ前號ノ末ニモ未ダ其確報タルヲ信スルニ足サル旨ヲ述ルト雖モ今又記シテ看者ノ疑ヲ解ケリ且又此新聞ニ記スル所モ亦疑ヒ無キニアラス確信ヲ得バ之レヲ掲記センノミ

譯者誌

海外新聞十號畢

官版御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋源兵衛